

中期計画の項目	2-(5)-①	地方公共団体等を対象とする文化財に関する研修及び協力等
年度計画の項目	2-(5)-①-1)・2)	①文化財に関する研修の実施 1) 文化財の担当者研修、博物館・美術館等の保存担当学芸員研修を行う。 2) 研修受講生を対象としたアンケート及び派遣元自治体を対象とした研修成果の活用状況に関するアンケート調査を引き続き行い、その結果を踏まえ、より充実した研修計画を策定する。
プロジェクト名称	博物館・美術館等保存担当学芸員研修（上級コース）	
保存科学研究センター	【プロジェクトスタッフ（責任者に○）】○建石徹（保存科学研究センター長）、秋山純子（保存環境研究室長）、千葉毅（研究員）、芳賀文絵（研究員）、由井和子（研究補佐員）、柘植奈穂（事務補佐員）ほか	

【年度実績と成果】

○第3回博物館・美術館等保存担当学芸員研修（上級コース）を実施した（7月10～14日、受講者30人）。

・3年度より保存環境に重きを置いた基礎的な内容を文化財活用センターが「基礎コース」として行い、東京文化財研究所では、「上級コース」としてこれまで博物館・美術館等保存担当学芸員研修を受講されてきた方々や同等の経験を有している方を対象に実施した。

・研修内容は次のとおりである。文化財修復原論、文化財の科学調査、空気質（空気質について／空気汚染の文化財への影響／空気質の改善・換気の考え方）、保管環境に関する理論と実践（空調）、文化財IPM概論・実習、修復材料の種類と特性、屋外資料の劣化と保存、近代化遺産の保護、多様な文化財の保存と修復（文化財レスキューについて／一時保管施設の環境管理／博物館現場で日常的に実践できる文化財防災）、博物館の防災、民具の保存と修復、大量文書の保存・対策、紙本作品等の保存と修復、写真の保存・管理。

・研修終了後にカリキュラム各項目の理解度や有用度、また今後の要望等に関するアンケート調査を行ったところ、研修全体を通して満足度が高いという評価だった。



空調に関する講義の様子

年度計画評価	B
--------	---

【評定理由】

研修後に行ったアンケート調査によると、満足度の高い研修だったことが窺える。一方で、もう少し研修時間にゆとりを持たせて欲しいといった意見や今後のフォローアップの要望もあり、引き続き、保存担当学芸員の方々にとって有益な研修となるよう、研修内容を検討していく必要がある。

4年度は新型コロナウイルス感染対策のため受講者数は18名だったが、5年度は感染状況が落ち着いていることに鑑み30名での開催となった。人数が多くなったことにより、時間的な余裕が少なくなったことは事実だが、その分規模や館種を超えた受講生たちが顔を合わせて、現場での悩みや共通の問題について意見交換の場を提供することができたのではないかと考える。その結果、研修の満足度は100%であった。

【目標値】	【実績値・参考値】	定量評価
(1) アンケートによる研修成果の活用実績 80%以上	(実績値) (1) 研修成果の活用実績 92% (参考値) (1) 実施件数 1件 (2) 受講者数 30人	B

中期計画評価	B
--------	---

中期計画記載事項	文化財に関する高度な研究成果をもとに、地方公共団体等の文化財担当者に対し文化財に関する研修を行うとともに、保存担当学芸員に対し保存科学に関する研修を行う。なお、研修の評価については、アンケートによる研修成果の活用実績が80%以上となることを目指す。
評定理由	中期計画期間の3年目にあたり、5年度は新たな講師を投入したことにより、より実際の講義・実習の研修を実施することができた。受講者向けのアンケートでは満足が高いという評価を得たが、時間が過密であるとの意見もあった。上級コース設置から3年目となり、研修内容を試行錯誤しつつ、改善することができた。また、今後の改善点も明確になった。以上の理由から、順当に遂行できたと判断し、B判定とした。

中期計画の項目	2-(5)-①	地方公共団体等を対象とする文化財に関する研修及び協力等
年度計画の項目	2-(5)-①-2)	①文化財に関する研修の実施 2)研修受講生を対象としたアンケート及び派遣元自治体を対象とした研修成果の活用状況に関するアンケート調査を引き続き行い、その結果を踏まえ、より充実した研修計画を策定する。
プロジェクト名称	文化財担当者研修	
企画調整部・研究支援推進部	【プロジェクトスタッフ（責任者に○）】 ○清野 孝之（企画調整部長兼企画調整室長）、林洋平（総務係長） ほか	
【年度実績と成果】		
○①古文書歴史資料調査基礎課程 6月5日～6月9日 20名 ②建築遺構調査課程 6月19日～6月23日 16名 ③建造物保存活用基礎課程 7月3日～7月7日 24名 ④木質文化財の科学的調査基礎課程 7月11日～7月14日 11名 ⑤遺跡地図・GIS課程 7月24日～7月28日 37名 (うちオンライン参加28名) ⑥文化財三次元計測課程 10月2日～10月6日 28名 ⑦保存科学（金属製遺物）課程 10月10日～10月18日 14名 ⑧文化財写真課程 11月20日～12月1日 16名 ⑨報告書編集基礎課程 12月4日～12月8日 24名 ⑩報告書デジタル作成課程 12月11日～12月15日 16名 ⑪史跡保存活用計画策定課程 6年1月16日～1月22日 14名 ⑫地震災害痕跡調査課程 6年2月19日～2月22日 8名 ⑬文化財三次元計測課程(入門) 8月30日～9月1日 12名（出張型） ○遺跡の発掘調査や保存・整備等に関し、必要な知識と技術の研鑽を図るため、地方公共団体等の文化財担当職員を対象として、専門研修13課程の研修を実施し、延べ240人が受講した。 ○6月12日～6月16日に開催予定であった出土文字資料調査課程は、応募者僅少のため中止となった。 ○⑤遺跡地図・GIS課程においては、対面と併せオンラインでも研修を実施し、38名の受講者があった。 ○研修受講者に対するアンケート調査では、99.5%から「有意義であった」「役に立った」との回答を得ており充実した研修が実施できた。 ○派遣元を対象とした研修成果の活用状況に関するアンケート調査を2月～3月に実施した。		



文化財写真課程



文化財写真課程

年度計画評価	B
--------	---

【評定理由】		
5年度は13の課程を実施し、240人の受講者を受け入れた。いずれの課程も当研究所以外では実施していない我が国では唯一無二のものであり、最新の知見を盛り込み専門性や独自性を備えたものとなっている。その中で、古文書歴史資料調査基礎課程、文化財写真課程、報告書編集基礎課程、報告書デジタル作成課程においては定員を大幅に超える申込があるなど、全国地方自治体の需要に据えていると言える。 また、多様な要望に応えるべく、現地の自治体の協力の下で出張型の研修である文化財三次元計測課程(入門)や、オンラインとのハイブリッド型の遺跡地図・GIS課程を行うなど、工夫を重ね、満足度の向上と受講者数の増加を図っている。 さらに、研修成果の活用状況は98.1%と目標を達成しているのみならず、受講者のアンケートにおいては研修が「有意義であった」「役に立った」との回答が100%となっている。 以上のとおり、所期の目標を達成したため、年度計画評価をBとした。		
【目標値】 ・研修成果の活用状況 80%	【実績値・参考値】 (実績値)・研修成果の活用状況 98.1% (参考値)・研修の実施件数 13課程 ・研修の受講者数 240人	定量評価
		A

中期計画評価	B
中期計画記載事項	文化財に関する高度な研究成果をもとに、地方公共団体等の文化財担当者等に対し文化財に関する研修を行うとともに、保存担当学芸員に対し保存科学に関する研修を行う。 なお、研修の評価については、アンケートによる研修成果の活用実績が80%以上となることを目指す。
評定理由	本中期計画期間初年度の3年度以降、地方公共団体等の文化財担当者等に対し10以上の多様な課程の研修を毎年度継続して実施し、アンケートによる活用実績も毎年80%以上と目標を達成してきた。5年度も13課程、活用実績98.1%と引き続き順調に実施することができていることから、中期計画に対し着実な成果を挙げてきていると評価できる。 以上からBと判定した。

中期計画の項目	2-(5)-②	地方公共団体等を対象とする文化財に関する研修及び協力等
年度計画の項目	2-(5)-②-1)	②文化財に関する協力・助言等 国・地方公共団体や大学、研究機関との連携・協力体制を構築し、これらの機関が所有・管理する文化財に関する情報の収集、知見・技術の活用、本機構が行った調査研究成果の発信等を通じて、文化財に関する協力・助言を行う。 1) 地方公共団体等からの要請に応じ、文化財及びその保存・活用に関する協力・助言・調査支援・情報提供等を行う。
プロジェクト名称	文化財の収集、保管に関する指導助言	
文化財情報資料部	○江村知子(部長)、二神葉子(文化財情報研究室長)、橘川英規(文化財アーカイブズ研究室長)、安永拓世(広領域研究室長)、田代裕一郎(研究員)、小林公治(特任研究員)ほか	

【年度実績と成果】

- 文化審議会世界文化遺産部会臨時委員として日本における世界遺産条約の履行のあり方に関する検討での助言
 - 文化庁の非常勤調査員として熊野速玉大社所蔵の国宝古神宝類に関する保存・現状調査・保存計画の協議と助言
 - 文化庁の非常勤調査員として重要文化財の草堂寺方丈障壁画の現状調査と今後の修理計画に関する協議・助言
 - 文化庁の非常勤調査員として美術工芸品修理のための用具・原材料と生産技術の保護・育成等促進事業に関する助言
 - 文化庁の非常勤調査員として丹後郷土資料館の所蔵資料に関する調査・助言
 - 国立歴史民俗博物館運営会議委員・資料収集委員会委員として博物館運営に関する検討での助言、および同館資料収集委員会委員として作品収蔵に関する検討での助言
 - 江戸東京博物館資料収蔵委員として作品収蔵に関する検討での助言
- 8～42. 以下、文化財調査・保管等に関する協力・助言
愛知県美術館、足立区郷土博物館、サントリー美術館、戸栗美術館、五島美術館、和泉市久保惣記念美術館、大村市歴史資料館、神奈川県立歴史博物館、京都府教育委員会、角屋もてなしの文化美術館、徳川美術館、中之島香雪美術館、南蛮文化館、日本二十六聖人記念館、広島県立美術館、フェルケール博物館、文化財建造物保存技術協会、野崎家塩業歴史館、北海道立北方民族博物館、大和文華館、理智院、和歌山県立博物館、絵金蔵、佐賀県立九州陶磁文化館、浦添市美術館、沖縄県立博物館・美術館、仙台市教育委員会、MIHO Museum、駐日韓国大使館文化院、駐日エジプト大使館、日韓文化交流基金、忠南文化遺産研究所・ソウル大学校博物館・湖林博物館・民族文化遺産研究院・リウム美術館(韓国)、タイ国立図書館、スアン・パッカード博物館(タイ)、パウアー財団東洋美術館・リートベルク美術館(スイス)、グラッシー美術館(ドイツ)、セインズベリー視覚芸術センター(イギリス)

年度計画評価	B
--------	---

【評定理由】

国・地方公共団体、私立美術館、また海外の美術館等からも寄せられる、文化財に関する様々な要請に対して、適切な指導・助言を行うことができた。各職員の有する専門分野や技能を十分に活かして、当研究所独自の協力ができた。4年度に引き続き、継続的に文化庁や公立館の業務が円滑に推進できるように協力できたことにより、関連機関とも連携して高い信頼性を築くことができた。以上の理由により、順調かつ効率的に事業が推進できていると判断した。

【目標値】	【実績値・参考値】 (実績値) ・指導・助言 42 件	定量評価
		—

中期計画評価	B
--------	---

中期計画記載事項	
評定理由	文化財情報資料部の研究職員に寄せられる文化財に関する様々な要請・依頼に対して、それぞれの専門性や技能に基づいて協力し、公的機関の果たすべき使命である適切な指導・助言を行うことができた。以上により中期計画を順調に遂行できていると判断し、B評定とした。

中期計画の項目	2-(5)-②	地方公共団体等を対象とする文化財に関する研修及び協力等
年度計画の項目	2-(5)-②-1)	②文化財に関する協力・助言等 国・地方公共団体や大学、研究機関との連携・協力体制を構築し、これらの機関が所有・管理する文化財に関する情報の収集、知見・技術の活用、本機構が行った調査研究成果の発信等を通じて、文化財に関する協力・助言を行う。 1) 地方公共団体等からの要請に応じ、文化財及びその保存・活用に関する協力・助言・調査支援・情報提供等を行う。
プロジェクト名称	無形文化遺産に関する助言	
無形文化遺産部	【プロジェクトスタッフ（責任者に○）】○石村智（部長）、久保田裕道（無形民俗文化財研究室長）、前原恵美（無形文化財研究室長）ほか	

【年度実績と成果】

○無形文化遺産の保存・伝承・活用等に関する助言

- ・文部科学省への教科用図書検定調査審議会第6部会音楽小委員会に関する助言1件
- ・文化庁美術工芸品修理の用具・原材料に関する調査委員会に関する助言2件
- ・文化庁への審査に関する助言2件
- ・文化庁への調査員としての楽器を中心とした文化財保存技術に関する助言1件
- ・文化庁への文化審議会に関する助言1件（文化審議会臨時委員）
- ・文化庁への各種委員会への助言1件（伝統文化親子教室事業に係る協力者会議委員）
- ・山形県への文化財保護審議会委員としての助言1件
- ・山形県への山形県指定文化財保存実態調査調査員としての助言1件
- ・千葉県への博物館資料審査委員及び「房総のお浜降り習俗」記録映像作成検討委員会委員としての助言2件
- ・東京都への東京都民俗芸能大会実行委員としての助言1件
- ・千葉県への記録制作事業調査員としての助言1件
- ・神奈川県への民俗芸能記録保存調査企画調整委員会委員としての助言1件
- ・山梨県への文化財保護審議会委員としての助言1件
- ・島根県への古代文化センター客員研究員としての助言1件
- ・高知県基茶製造技術調査委員としての助言1件
- ・沖縄県への芸術的身体表現を伴う行事調査に関する助言1件
- ・柏市への篠籠田の獅子舞調査検討委員会委員としての助言1件
- ・武蔵野市への文化財保護委員としての助言1件
- ・箱根町への箱根湯立獅子舞伝承・活用等事業に係る整備委員会委員としての助言1件
- ・甲府市への天津司舞調査報告書作成事業に関する助言2件
- ・静岡県への文化財保護審議会委員としての助言1件
- ・ふじのくに無形民俗文化財保存継承アドバイザーとして無形民俗文化財の保存継承に関する助言4件
- ・岐阜県岐阜市・関市の鶴飼習俗総合調査委員としての助言1件
- ・京都市への京都芸術センター伝統芸能文化創成プロジェクト推進会議委員としての助言1件
- ・国立歴史民俗博物館への共同研究員としての助言2件
- ・公益社団法人全日本郷土芸能協会への運営に関する助言1件
- ・公益財団法人ポーラ伝統文化振興財団への伝統文化ポーラ賞選考委員会選考委員としての助言1件
- ・一般財団法人日本青年館への全国民俗芸能大会企画委員としての助言1件

年度計画評価	B
--------	---

【評定理由】

5年度も計画通り各方面に対して必要な助言等を上記の通り実施した。
国・都道府県・市町村といった行政機関だけでなく、公益財団法人等の無形文化遺産に関わる各種団体にも幅広く助言を行うことが出来た。本プロジェクトのスタッフは少人数ながらも専門性において各分野に適した研究員が効率よく対応できている。以上のことから、5年度も一定の成果を達成することが出来たと言える。

【目標値】	【実績値・参考値】 (参考値) 助言 36 件	定量評価
		—

中期計画評価	B
--------	---

中期計画記載事項	国・地方公共団体や大学、研究機関との連携・協力体制を構築し、これらの機関が有する文化財に関する情報の収集、知見・技術の活用、機構が行った調査研究成果の発信等を通じて、文化財に関する協力・助言を行う。
評定理由	5年度になって対面での会議もほぼ通常通り行うことが出来るようになり、それにオンラインでの会議を加えることによって、効率的に多様な助言依頼に対応できている。また、対象も文化庁をはじめとする国から、都道府県・市町村といった地方公共団体までまんべんなく広がっている。さらに、助言による先方への協力のみならず、無形文化遺産をめぐる現状と課題のための情報収集にも貢献できている。以上より、中期計画を順当に遂行できていると言える。

中期計画の項目	2-(5)-②	地方公共団体等を対象とする文化財に関する研修及び協力等
年度計画の項目	2-(5)-②-1)	②文化財に関する協力・助言等 国・地方公共団体や大学、研究機関との連携・協力体制を構築し、これらの機関が所有・管理する文化財に関する情報の収集、知見・技術の活用、本機構が行った調査研究成果の発信等を通じて、文化財に関する協力・助言を行う。 1) 地方公共団体等からの要請に応じ、文化財及びその保存・活用に関する協力・助言・調査支援・情報提供等を行う。
プロジェクト名称	文化財の虫菌害に関する調査・助言	
保存科学研究センター	【プロジェクトスタッフ（責任者に○）】 ○佐藤嘉則（生物科学研究室長）、島田潤（アソシエイトフェロー）、建石徹（センター長）	

【年度実績と成果】

- これまでに蓄積された文化財の生物被害対策に関する調査・研究の成果を活かし、国や地方公共団体等からの要請に応じて専門的な見地から技術的な協力・助言を行うことにより、文化財の保存に関する質的向上に貢献した。
- 主な虫菌害問題の相談元は、例年の通り、国や地方公共団体の博物館、美術館、図書館、教育委員会や社寺などの文化財保存担当あるいは文化財修復工房等であった。
- 対応件数は合計で 37 件あり、電話、電子メール、WEB 会議などで対応し、必要に応じて現地での調査を行い、問題解決に努めた。
- 相談内容は、文化財を加害した虫菌の種の同定相談や殺虫・殺菌処理に使用する薬剤に関すること、文化財 IPM の基本事項など一般的な相談案件が主であった。
- その他に遺構や古墳などでの植物根の被害、菌類の子実体による被害など幅広い生物群による被害についても相談を受けた。その中でも木造建造物での穴あけ被害の相談があり、赤外線カメラを長期間設置して観察を行い、加害生物が鳥類（キツツキ）であることを特定するといった現地調査にも対応した。
- 文化財の虫菌害を未然に防ぐための啓発・普及活動の一環で、生物被害に関する研修講師を 7 件担当した。その際に生物科学研究室で作成した啓発普及ポスターを配布し、広報普及活動を行った。



カビ被害を受けた作品のカビの生残性の調査

年度計画評価	B
--------	---

【評定理由】

生物被害は、発見後に速やかな対応を行わないと被害が深刻化するため、全国から寄せられた相談案件に対して迅速かつ適切に対応することが求められる。今年度も限られたスタッフで最大限対応した点で、適時性・迅速性・効率性を持って対応できたと高く評価できる。また、屋内外を問わず、虫菌害をはじめ植物や鳥獣害など幅広い生物被害に対応したという点も他機関にはない独自性があり評価できる。これらの検出・診断ツールの検討も進めており、分子生物学的な手法で様々な生物種を特定できるようになったことは発展性のある成果と言える。短期間で現地調査や分析試験を分担し、5 年度も相談を受けた全案件に対応することができた点は高く評価できる。相談案件は毎年度一定数が寄せられており、相談窓口としての認識が浸透していることが評価できる反面、相談数が減っていないことについては教育普及に注力し、件数を減らしていくような努力も求められる。デジタル文化財害虫事典の整備も進めており、6 年度にはその一般開示を進める予定である。以上、当初の計画の通り、継続的に事業が推移していると判断した。

【目標値】	【実績値・参考値】	定量評価
	・協力・助言実施件数 37 件 ・研修等講師対応件数 7 件	—

中期計画評価	B
--------	---

中期計画記載事項	国・地方公共団体や大学、研究機関との連携・協力体制を構築し、これらの機関が有する文化財に関する情報の収集、知見・技術の活用、機構が行った調査研究成果の発信等を通じて、文化財に関する協力・助言を行う。
評定理由	中期計画の通り、国や地方公共団体等からの文化財に関する生物被害の要請に対して協力・助言を行い、文化財の保存に関する質的向上に一定の貢献をすることができた。生物被害は迅速な対応が求められるが、研究業務を調整しながら優先して取り組むことができた。相談案件数を減らすための取り組みとして研修講師への対応も行っており、啓発普及ポスターの頒布なども実施している。さらにデジタル害虫図鑑の整備も進めており、限られた人員で対応する事ができるように、啓発普及活動を継続して取り組んでいく必要がある。以上から、中期計画の 3 年目として順調に業務が遂行されたといえる。

中期計画の項目	2-(5)-②	地方公共団体等を対象とする文化財に関する研修及び協力等
年度計画の項目	2-(5)-②-1)	国・地方公共団体や大学、研究機関との連携・協力体制を構築し、これらの機関が所有・管理する文化財に関する情報の収集、知見・技術の活用、本機構が行った調査研究成果の発信等を通じて、文化財に関する協力・助言を行う。 1) 地方公共団体等からの要請に応じ、文化財及びその保存・活用に関する協力・助言・調査支援・情報提供等を行う。
プロジェクト名称	文化財の修復及び整備に関する調査・助言	
保存科学研究センター	【プロジェクトスタッフ（責任者に○）】 ○朽津信明（修復計画研究室長）、建石徹（センター長）、早川典子（修復材料研究室長）、倉島玲央（研究員）、芳賀文絵（研究員）、千葉毅（研究員）、中山俊介（特任研究員）	

【年度実績と成果】

○5年度に実施した各地の国宝、史跡や重要文化財等の保存や修復に関する指導助言は以下のとおりである。

国宝高松塚古墳壁画、国宝・特別史跡臼杵磨崖仏、国宝平等院鳳凰堂、国宝キトラ古墳壁画、国宝姫路城、国宝通潤橋、特別史跡王塚古墳、史跡端島炭鉱跡、史跡フゴッペ洞窟、史跡佐渡金銀山遺跡、史跡菰山反射炉、史跡高島炭坑跡、史跡原爆ドーム、史跡津田古墳群、史跡原城跡、史跡日野江城跡、史跡吉利支丹墓碑、史跡屋形古墳群、史跡田主丸古墳群、史跡吉見百穴、史跡築瀬二子塚古墳、史跡旧新橋停車場跡及び高輪築堤跡、史跡出島和蘭商館跡、史跡薬師堂石仏、史跡竹田城跡、史跡清戸迫横穴、重要文化財氷川丸、重要文化財祇園橋、重要文化財厳島神社大鳥居、重要文化財厳島神社多宝塔板絵、重要文化財二条城杉戸絵、重要文化財琉球芸術調査写真（鎌倉芳太郎撮影）、重要文化財法隆寺金堂壁画、重要文化財樵夫蒔絵硯箱、重要文化財厳島神社五重塔、重要文化財康保元年十一月勸学会記（綾本）、重要文化財能装束（葎水禽文様）、重要文化財羅漢寺石仏、重要文化財祇園橋、重要文化財旧帝国京都博物館本館、重要文化財東大谷日女神社石燈籠、重要文化財日本丸、重要文化財旧小野田セメント製造株式会社竪窯、特別天然記念物秋芳洞、天然記念物龍河洞、天然記念物郷村断層、熊本県内被災古墳



銘文の剥離が懸念されている、志木市指定有形民俗文化財中宗岡の御嶽塚

○地方自治体指定その他の文化財の保存と修復に関する指導助言は以下のとおりである。

首里城、川崎市市民ミュージアム、京都府指定木造彩色宝珠台（海住山寺）、志木市指定有形民俗文化財中宗岡の御嶽塚、新宮市指定有形民俗文化財神倉神社の手水鉢、香川県指定有形文化財勝造寺層塔、安中市町北遺跡、平泉町指定有形文化財オダイシヤマ、さぬき市雨滝山露頭、うきは市塚堂古墳、東京都第5福竜丸、航空協会航空関連紙資料、栃木市星野遺跡、知覧特攻平和会館、滋賀県平和祈念館、登録有形文化財機那サフラン酒製造本舗土蔵

年度計画評価	B
--------	---

【評定理由】

コロナ禍の行動制限が緩和され、5年度はリモートではなく現地に足を運んで協力する現場が増えてきている。現地で担当者とともに現物を見ながら協力することで、コロナ禍前のレベルに近く、有効に指導助言を行うことができたことで継続性・発展性を担保できた。また、有形民俗文化財など、例年以上に様々なカテゴリの文化財について協力することができ、独創性を示せた。以上から、順調に進行していると判断した。

【目標値】	【実績値・参考値】 (参考値) 指導・助言件数 63件	定量評価
		—

中期計画評価	B
--------	---

中期計画記載事項	
評定理由	移動制限が緩和されて、コロナ禍以前のようにそれぞれの現場で協力を行う機会が戻ってきている。協力する文化財のカテゴリも広がっており、各地で行われている文化財の保存修復事業に関する要望に対して、幅広く寄与できるようになってきている。以上の理由から、中期計画に従って順調に推移していると言える。

中期計画の項目	2-(5)-②	地方公共団体等を対象とする文化財に関する研修及び協力等
年度計画の項目	2-(5)-②-1)	国・地方公共団体や大学、研究機関との連携・協力体制を構築し、これらの機関が所有・管理する文化財に関する情報の収集、知見・技術の活用、本機構が行った調査研究成果の発信等を通じて、文化財に関する協力・助言を行う。 1) 地方公共団体等からの要請に応じ、文化財及びその保存・活用に関する協力・助言・調査支援・情報提供等を行う。
プロジェクト名称	文化財の材質・構造に関する調査・助言	
保存科学研究センター	【プロジェクトスタッフ（責任者に○）】 ○犬塚将英（分析科学研究室長）、早川泰弘（特任研究員）、紀芝蓮（アソシエイトフェロー）、寺島海（研究補佐員）	
【年度実績と成果】 5年度は、蛍光X線分析・X線回折分析・ハイパースペクトルカメラによる材質調査、及びX線透過撮影による構造調査などの調査・助言を実施した。調査を行った作品、所蔵先、調査月は以下の通りである。		
○材質調査 ・民俗資料（清水建設株式会社、4月）、・刀剣（佐野美術館、4-6年3月）、・考古資料（個人蔵、6月）、・漆工品（根津美術館・徳川美術館・沖縄美ら島財団、6月）、・絵馬5点（羽生市、8月）、・歴史史料（金沢市立玉川図書館、8-12月）、・染織品（千總文化研究所、9月）、・金属製念持仏・掛仏他（平等院、9-10月）、・サンプリング試料（大徳寺、10月）、・サンプリング試料（平等院、10月）、・須弥壇金工品（中尊寺、11月）、・建築部材（横浜市開港記念会館、11-12月）、・日本画屏風（金沢市立中村記念美術館、12月）、・油彩画1点、日本画1点（愛知県美術館、12月）、・絵馬（田村神社、6年2月）		
○構造調査 ・彫刻、油彩画（泉屋博古館東京、11月）、・油彩画（豊橋市美術博物館、6年1月）、・絵馬（田村神社、6年2月）		



油彩画の材質調査



油彩画の材質調査

年度計画評価	B
--------	---

【評定理由】 所蔵先からの要請に従い材質調査・構造調査を実施し、調査後は速やかに調査報告書を作成し、材質・構造に関する助言を行った。調査の目的や内容に応じて、顕微鏡観察、蛍光X線分析、X線回折分析、反射分光分析、X線透過撮影などの複数の手法を適用し、互いに補完しながら調査結果の考察・検討を行った。特にハイパースペクトルカメラを用いた反射分光分析に関しては、彩色材料の2次元的な分布に関する新しい情報が得られた。 いずれの分析手法においても、設置方法及び機材の輸送方法の改良を重ね、材質・構造調査を実施する際の安全性と効率が向上し、これまでの20年以上にわたる調査実績を積み重ねもあり、他所を凌駕する精度の調査結果を継続的に報告している点を高く評価することができる。以上の点を総合的に評価し、所期の計画通り、事業が推移していると判断した。		
【目標値】	【実績値・参考値】 (参考値) 調査・助言件数 18件	定量評価
		—

中期計画評価	B
中期計画記載事項	
評定理由	中期計画の3年目である5年度は、4年度に引き続き、これまでに当研究所が実践してきた科学的調査技術を駆使して、文化財の材質・構造に関する調査・助言を継続的に行った。ハイパースペクトルカメラを用いた反射分光分析や蛍光X線分析で2次元マッピングによる調査の件数が増加し、材料の面的な分布に関する分析データの蓄積が進んでいる。以上の理由から、中期計画の3年目として、順調に遂行されたといえる。

中期計画の項目	2-(5)-②	地方公共団体等を対象とする文化財に関する研修及び協力等
年度計画の項目	2-(5)-②-1)	国・地方公共団体や大学、研究機関との連携・協力体制を構築し、これらの機関が所有・管理する文化財に関する情報の収集、知見・技術の活用、本機構が行った調査研究成果の発信等を通じて、文化財に関する協力・助言を行う。 1) 地方公共団体等からの要請に応じ、文化財及びその保存・活用に関する協力・助言・調査支援・情報提供等を行う。
プロジェクト名称	美術館・博物館等の環境調査と援助・助言	
保存科学研究センター	【プロジェクトスタッフ（責任者に○）】 ○秋山純子（保存環境研究室長）、建石徹（保存科学研究センター長）、水谷悦子（文化財防災センター、（併）東文研）	

【年度実績と成果】

○文化財活用センターと協力しながら、当研究所では国公立美術館・博物館、社寺等から保存環境に関する相談を受け、相談内容に応じて援助・助言を行った。特に5年度は空気質に関する相談が多く、博物館・美術館等で空気質の改善につながる助言や研究会を実施した。展示ケース内の有機酸に関する相談が最も多く、使う材料や換気などについて助言した。

○美術館・博物館で空調にかかる消費電力エネルギーの測定を行い、吹き出し口の温湿度の状況と比較することで安定した保存環境と空調運用に対して助言を行った。



吹き出し口の温湿度測定と
気流調査の様子

年度計画評価	B
--------	---

【評定理由】

実際の美術館で消費電力エネルギーの測定を実施し、これからの省エネを念頭に置いた空調運用に関して助言することができた。また、展示ケースにおける有機酸を減らす改善策を現場で立ち会いながら助言することができた。

新築の収蔵庫の保存環境に対し、文化財活用センターと協力して現地に対応し、保存環境に関する相談に対しては、それぞれの館の状況に沿った助言を継続して行った。

以上のことから、5年度計画を順当に遂行できたと判断し、B評価とした。

【目標値】	【実績値・参考値】 (実績値)	定量評価
	・ 保存環境に関する相談対応 33 件	—

中期計画評価	B
--------	---

中期計画記載事項	国・地方公共団体や大学、研究機関との連携・協力体制を構築し、これらの機関が有する文化財に関する情報の収集、知見・技術の活用、機構が行った調査研究成果の発信等を通じて、文化財に関する協力・助言を行う。
評定理由	様々な博物館・美術館等からの保存環境に関する問い合わせに対し、館の状況に沿った援助・助言することができた。5年度の成果を踏まえ6年度に続く、省エネを念頭に置いた保存環境構築のための研究を進めることができた。 6年度も様々な環境事例への対応・調査を進め、調査研究成果の発信を積極的に行う予定である。以上の理由から、中期計画の3年目を順調に遂行できたと見える。

中期計画の項目	2-(5)-②	地方公共団体等を対象とする文化財に関する研修及び協力等		
年度計画の項目	2-(5)-②-1)	②文化財に関する協力・助言等 国・地方公共団体や大学、研究機関との連携・協力体制を構築し、これらの機関が所有・管理する文化財に関する情報の収集、知見・技術の活用、本機構が行った調査研究成果の発信等を通じて、文化財に関する協力・助言を行う。 1) 地方公共団体等からの要請に応じ、文化財及びその保存・活用に関する協力・助言・調査支援・情報提供等を行う。		
プロジェクト名称	地方公共団体等が行う平城地区の発掘調査等への援助・助言			
都城発掘調査部（平城）	【プロジェクトスタッフ（責任者に○）】 ○今井晃樹（都城発掘調査部副部長）ほか、同部平城地区部員 15 名			
【年度実績と成果】				
・ 地方公共団体等の要請に対して特別史跡平城宮跡等、あるいは建設工事に伴う平城京跡や寺院旧境内の発掘調査及び工事に伴う遺跡の保護のための立会調査を実施した。				
・ 受託研究による発掘調査の概要は次のとおりである。				
次 数	遺跡名	調査面積	調査期間	主な検出遺構・出土遺物等
第 655 次	西大寺弥勒金堂	44 m ²	3 月 1 日～4 月 3 日	基壇土、壺地業 6 基、礎石抜取穴 6 基等
第 656 次	法華寺旧境内の発掘調査	601 m ²	8 月 21 日～10 月 20 日	溝 8 条、掘立柱建物 7 棟、大土坑など
第 658 次	平城京左京三条一坊二坪	1,115 m ²	10 月 3 日～未了	石列 2 条、柱穴列 2 条、建物 1 棟など
第 659 次	法華寺跡	22.1 m ²	10 月 4 日～10 月 6 日	落ち込み、石列等
・ 奈良県・奈良市等の要請に対して実施した工事等への立会調査 計 20 件、延べ 53 日				
・ 国土交通省平城宮歴史公園事務所に対して実施した工事等への立会調査 計 3 件、延べ 26 日、その他打ち合わせ等対応：1 件				
・ 文化庁に対して実施した工事等への立会調査 計 4 件、延べ 6 日、その他打ち合わせ等対応：2 件				

年度計画評価	B	
【評定理由】 地方公共団体等からの要請に対して迅速に対応することで、文化財保護行政及び平城宮京の研究に重要な基礎資料を蓄積することができた。文化財行政や学術研究において最大限の成果が得られるよう、複数の要請について戦略的、計画的に対応した。遺構面の標高や遺構の分布状況の把握を通じて、今後の遺跡保存対策及び平城宮京の研究に資する情報を獲得することができた。また、発掘調査・立会調査などの作業計画の調整などを通じて、施工者や国民への負担を最低限に留めて調査を効率的に進めることができた。要請に応じて対応できた件数自体は、予算の都合上、減らさざるをえなかったが、前述のとおり、計画に沿って平城宮京内に位置する遺跡の分布状況や各遺跡の性格についての情報を継続的に蓄積することができたため、B評価とした。		
【目標値】	【実績値・参考値】 (参考値) 発掘調査（受託）：4 件 立会調査：27 件（延べ日数 85 日）	定量評価
		—

中期計画評価	B
中期計画記載事項	国・地方公共団体や大学、研究機関との連携・協力体制を構築し、これらの機関が有する文化財に関する情報の収集、知見・技術の活用、機構が行った調査研究成果の発信等を通じて、文化財に関する協力・助言を行う。
評定理由	地方公共団体等からの要請に応じて適宜、発掘調査・立会等に対応して、文化財保護に資する研究を行い、平城京城における学術的情報の蓄積に貢献した。6 年度以降についても、地方公共団体からの要請に対しては都城発掘調査部の他の事業との連携を重視しながら、学術的研究に資する発掘調査・立会に戦略的に対応する計画を立て、平城宮京における遺跡の情報を確実に蓄積していきたいと考えている。以上、予算上やむなく要請に応じられなかった件数も少なくないが、最大限対応可能な要請には応じることができたため、おおむね計画通り順調に進捗していると判断し、B 評価とした。

中期計画の項目	2-(5)-②	地方公共団体等を対象とする文化財に関する研修及び協力等
年度計画の項目	2-(5)-②-1)	②文化財に関する協力・助言等 国・地方公共団体や大学、研究機関との連携・協力体制を構築し、これらの機関が所有・管理する文化財に関する情報の収集、知見・技術の活用、本機構が行った調査研究成果の発信等を通じて、文化財に関する協力・助言を行う。 1) 地方公共団体等からの要請に応じ、文化財及びその保存・活用に関する協力・助言・調査支援・情報提供等を行う。
プロジェクト名称	地方公共団体が行う飛鳥・藤原地区の発掘調査への指導・助言	
都城発掘調査部 (飛鳥・藤原)	【プロジェクトスタッフ（責任者に○）】 ○箱崎和久（部長）、廣瀬寛、森川実、林正憲、山本崇、鈴木智大（以上、室長）、若杉智宏、山藤正敏、福嶋啓人（以上、主任研究員）、岩永玲、谷澤亜里、道上祥武、（以上、研究員）、栗山雅夫（企画調整部写真室主任）	

【年度実績と成果】

飛鳥・藤原地区では奈良県・橿原市・桜井市・明日香村・奈文研で五者協議を定期的実施し、その協議内容に応じて地方公共団体等が行う発掘調査等への協力を実施している。5年度に実施した協力は5件で、土木工事に伴う立会調査5件である。立会調査のうち2件（第215-2・5次）は、国営飛鳥歴史公園の公園整備に伴うもので、橿原市・明日香村・国土交通省飛鳥公園事務所との協議に基づいて実施した。5年度はこれらを効率よく実施し、藤原宮及び飛鳥地域の開発等に対して適切に対応した。



明日香村平田の立会調査（第215-4次）

次 数	調 査 地	調査原因	発掘面積	調査期間	概 要
第215-1次	明日香村飛鳥	井戸掘削	96 m ²	12月14日～12月15日	顕著な遺構を認めず
第215-2次	明日香村豊浦	公園整備	487 m ²	12月19日～2月1日	顕著な遺構を認めず
第215-3次	橿原市高殿町	水路改修	125 m ²	12月21日～1月10日	顕著な遺構を認めず
第215-4次	明日香村平田	法面改修	24 m ²	6年1月15日～1月16日	顕著な遺構を認めず
第215-5次	明日香村豊浦	公園整備	30 m ²	6年2月13日～2月26日	顕著な遺構を認めず

年度計画評価	B
--------	---

【評定理由】

当研究所では調査研究の蓄積を活かし、地方公共団体が行う飛鳥・藤原地域における発掘調査等の援助事業を50年以上にわたり続けるとともに、関連市町村と定期的に協議を行い、開発事業等への対応を調整している。5年度も、地方公共団体からの要請に基づき、必要とされる立会調査に即時対応するとともに、適切な措置を執ることによって、それぞれの立会調査を短期間で完了することができた。これらの立会調査は小規模ではあるが、そこから得られた成果を蓄積し、今後の立会調査および発掘調査の計画策定及びその後の整備・活用に活かすことができる。その一例として、特別史跡藤原宮跡の整備基本構想の策定について、橿原市との協議を行った。

5年度の実施件数は少ないが、事業の進捗状況としては所期の計画通りであると判断する。

【目標値】	【実績値・参考値】	定量評価
	(参考値) ・地方公共団体が行う飛鳥・藤原地区の発掘調査の援助・助言 5件	—

中期計画評価	B
--------	---

中期計画記載事項	国・地方公共団体や大学、研究機関との連携・協力体制を構築し、これらの機関が有する文化財に関する情報の収集、知見・技術の活用、機構が行った調査研究成果の発信等を通じて、文化財に関する協力・助言を行う。
評定理由	我が国の古代国家成立期の主要舞台である飛鳥・藤原地域の調査研究は、開発事業との調整を適切に図りながら、関係自治体と緊密に連携して今後も継続的に進めていく予定である。中期計画の3年目にあたる5年度は、地方公共団体からの要請に応じて、立会調査を5件実施した。以上の評定理由により、Bと評価する。

中期計画の項目	2-(5)-②	地方公共団体等を対象とする文化財に関する研修及び協力等
年度計画の項目	2-(5)-②-1)	②文化財に関する協力・助言等 国・地方公共団体や大学、研究機関との連携・協力体制を構築し、これらの機関が所有・管理する文化財に関する情報の収集、知見・技術の活用、本機構が行った調査研究成果の発信等を通じて、文化財に関する協力・助言を行う。 1) 地方公共団体等からの要請に応じ、文化財及びその保存・活用に関する協力・助言・調査支援・情報提供等を行う。
プロジェクト名称	地方公共団体等が行う文化財及びその保存・活用に関する技術的助言	
奈良文化財研究所	【プロジェクトスタッフ（責任者に○）】 ○本中眞	

【年度実績と成果】

地方公共団体等が行う文化財の調査・保存・修復・整備・活用等の事業について、専門委員会委員への就任等を通して、5年度は建造物修理、史跡整備、発掘調査等に関する専門的・技術的な助言を256件行った。

- ・現在就任している専門委員会委員（一部）
 - 「古墳の復旧方法等に対する意見聴取委員会」委員
 - 美馬市景観審議会への委員
 - 塩尻市伝統的建造物群保存地区保存審議会委員
 - 埋蔵文化財事業運営協議会委員
 - 四万十市重要文化的景観保護審議会の委員
 - 橿原市文化財審議会委員
 - 旧寶日館保存活用計画策定委員会委員
 - 恭仁京跡調査専門家会議委員
 - 史跡旧和中散本舗・名勝大角氏庭園保存活用計画策定委員会委員
 - 神戸市文化財保護審議会委員
 - 五條市伝統的建造物群保存地区保存審議委員
 - 宇陀市松山地区伝統的建造物群保存地区保存審議会委員依頼
 - 大宰府史跡調査研究指導委員会の委員
 - 名勝胡宮神社社務所庭園保存整備委員会委員
 - 多賀大社庭園保存整備委員会委員

年度計画評価	B
--------	---

【評定理由】

当研究所職員が持つ独自の専門知識を活かし、全国から寄せられる多様な要請に対応し、各委員会等において助言を行い、文化財及びその保存・活用の質的向上に寄与した。

新型コロナウイルスの影響以降、現地における協力・助言の方法に変化が生じ、出張だけでなくリモートでの参加を併用しつつ、要請に応じた的確な対応をとることができた。

以上の理由から、当初の計画を達成できたと判断し、B評価とした。

【目標値】	【実績値・参考値】 (実績値)	定量評価
	・地方公共団体等が行う文化財及びその保存・活用に対する技術的助言 256 件	—

中期計画評価	B
--------	---

中期計画記載事項	国・地方公共団体や大学、研究機関との連携・協力体制を構築し、これらの機関が有する文化財に関する情報の収集、知見・技術の活用、機構が行った調査研究成果の発信等を通じて、文化財に関する協力・助言を行う。
評定理由	中期計画の3年目として、全国で行われている遺跡の発掘調査、保存・修復・整備事業や、建造物の調査、修復事業について、専門的な協力・助言を求められ、適時・適切に対応することができた。当研究所に対する社会的要求に応えることができていると判断し、B評価とした。

中期計画の項目	2-(5)-②	地方公共団体等を対象とする文化財に関する研修及び協力等
年度計画の項目	2-(5)-②-2)	②文化財に関する協力・助言等 国・地方公共団体や大学、研究機関との連携・協力体制を構築し、これらの機関が所有・管理する文化財に関する情報の収集、知見・技術の活用、本機構が行った調査研究成果の発信等を通じて、文化財に関する協力・助言を行う。 2) 蓄積されている調査研究成果を活かし、他機関等との共同研究及び受託研究を行う。
プロジェクト名称	他機関等との共同研究及び受託研究を実施	
東京文化財研究所	【プロジェクトスタッフ（責任者に○）】 ○齊藤孝正（所長）	
【年度実績と成果】 ○国・地方公共団体等が行う文化財の調査・整備・修復・保存・活用等について、受託研究等を行った。 ・ 国宝高松塚古墳壁画恒久保存対策に関する調査等業務 ・ 特別史跡キトラ古墳保存対策等調査業務 ・ 令和5年度文化遺産国際協力コンソーシアム事業 ・ 美術工芸品修理のための用具・原材料と生産技術の保護・育成等促進事業 ・ 令和5年度文化遺産国際協力拠点交流事業 「デジタル技術を用いたバハレーンにおける文化遺産の記録・活用に関する拠点形成事業」 ・ 令和5年度「近現代建築等の保護・継承等に係る海外事例調査」委託業務 ・ 旧機那サフラン酒製造本舗土蔵鍍絵保存修復調査業務委託		
このほか、一般財団法人日本航空協会ほか4機関と共同研究を行った（計4件）。		

年度計画評価	B	
【評定理由】 当研究所では、国・地方公共団体等の要請に応じて、喫緊の研究課題を的確に遂行した。当研究所は、我が国の文化財研究の拠点として、これまで当研究所が蓄積してきた調査・研究の実績を活かし、他機関等との共同研究及び受託研究に取り組んだ。多様な研究課題の実施に際し、所内適任者による効率的な調査を実施することができた。また、これまで当研究所が受託してきた国宝高松塚古墳壁画、及び国宝キトラ古墳壁画等の研究課題を発展して実施した。以上のことから、5年度も一定の成果を達成することができたと判断した。		
【目標値】	【実績値・参考値】 (実績値)	定量評価
	(参考値) 受託研究等 6件 補助事業 1件 共同研究 4件	—

中期計画評価	B
中期計画記載事項	
評定理由	中期計画3年目として、国・地方公共団体等からの共同研究及び受託研究の依頼に対し、中期計画に基づき、文化財に関する当研究所の知見や調査成果を活かし、的確に対応した。多くの機関との共同研究及び受託研究を実施したことにより、文化財に関する調査・研究の中核として、我が国全体の文化財の調査・研究の質的向上に寄与できているものとする。 6年度以降も、我が国全体の文化財の調査・研究の質的向上に寄与すべく、蓄積されている調査研究成果を活かし、他機関との共同研究及び受託研究に取り組んでいく。

中期計画の項目	2-(5)-②	地方公共団体等を対象とする文化財に関する研修及び協力等
年度計画の項目	2-(5)-②-2)	②文化財に関する協力・助言等 国・地方公共団体や大学、研究機関との連携・協力体制を構築し、これらの機関が所有・管理する文化財に関する情報の収集、知見・技術の活用、本機構が行った調査研究成果の発信等を通じて、文化財に関する協力・助言を行う。 2)蓄積されている調査研究の成果を活かし、他機関等との共同研究及び受託研究を行う。
プロジェクト名称	他機関等との共同研究及び受託研究	
奈良文化財研究所	【プロジェクトスタッフ（責任者に○）】 ○本中眞（所長）	

【年度実績と成果】

○要請を受け、受託研究を行った。

・文化庁（6件 171,870千円）

水中遺跡保護体制の整備充実に関する調査研究事業

緊急的文化遺産保護国際貢献事業（専門家交流）（ウクライナ戦争被災地における文化遺産の保護に係る専門家交流）ほか

・国土交通省等（2件 22,668千円）

・地方公共団体等（14件 33,149千円）

近代和風建築等総合調査事業仙北市角館武家住宅総合調査（横手市(秋田県)）

史跡出雲国府跡の発掘調査に必要とする地中レーダー探査（島根県埋蔵文化財調査センター）ほか

・その他の法人等（10件 48,873千円）

東大寺東塔復元案作成にかかる調査研究業務（東大寺）

人文学・社会科学データインフラストラクチャー強化事業（拠点機関）（日本学術振興会）ほか

○他機関等から業務を請け負った。

・「飛鳥・藤原の宮都とその関連資産群」推薦関係書類作成支援業務（奈良県）（請負額 2,558,715円）

○連携・協力し、研究を行った。

・地方公共団体等（9件）

静岡県浜松市（旧三ヶ日町）出土瓦塔の考古学及び自然科学的研究（浜松市（静岡県））

一乗谷朝倉氏遺跡の保存・活用のための保存技術の確立（福井県）

京都市内遺跡出土陶磁器の研究（京都市（京都府））

冠遺跡群出土石器の再検討（広島県立埋蔵文化財センター）ほか

・その他の法人等（12件）

文化財保護と普及啓発に関する協定に基づく調査研究（油長酒造株式会社）

文化財の保存及び活用に関する分析研究（日鉄テクノロジー株式会社）

伝 持田古墳群出土資料の考古学的研究（（公財）辰馬考古資料館）

山内清男コレクションの文理融合型次世代価値の創造と活用モデルの構築（京都大学）

全国文化財情報デジタルツインの社会実装に関する研究（産業技術総合研究所）

人文科学情報資源を活用した防災・減災に資する統合的研究に向けた連携協定（東北大学・当機構文化財防災センター）

八代目市川団十郎三升景清押紙の二次元元素マッピング分析（立命館大学）

高エネルギーX線CT装置の利活用高度化（（株）日立製作所）

東大寺境内建造物総合調査（東大寺）ほか



油長酒造株式会社との古代酒復元研究の様子

年度計画評価	B
--------	---

【評定理由】

全国各地の様々な機関に対して、要請を受け受託研究等を行うとともに、連携・協力して多くの研究を行うことができた。相手の施策に左右されるため件数や金額に増減はあるものの、安定した受託収入を継続して得ていることは、当研究所の専門的知見に対する期待の現れといえる。また、受託研究以外の様々な形態でも連携・協力体制を構築できている。よって、当初の計画を達成していると判断し、B評価とした。

【目標値】	【実績値・参考値】 (参考値)	定量評価
	・受託調査研究受入・実施件数 32件 276,560千円(4年度:31件 230,442千円)	—

中期計画評価	B
--------	---

中期計画記載事項	国・地方公共団体や大学、研究機関との連携・協力体制を構築し、これらの機関が有する文化財に関する情報の収集、知見・技術の活用、機構が行った調査研究成果の発信等を通じて、文化財に関する協力・助言を行う。
評定理由	中期計画の3年目として、受託研究等や研究の連携を通じて、文化財に関する協力・助言を行った。増減はあるものの安定した受託収入を継続して得ていることは、当研究所の専門的知見に対する期待の現れといえる。よって、所期の目標を達成していると判断し、B評価とした。

中期計画の項目	2-(5)-②	地方公共団体等を対象とする文化財に関する研修及び協力等
年度計画の項目	2-(5)-②-3)	②文化財に関する協力・助言等 国・地方公共団体や大学、研究機関との連携・協力体制を構築し、これらの機関が所有・管理する文化財に関する情報の収集、知見・技術の活用、本機構が行った調査研究成果の発信等を通じて、文化財に関する協力・助言を行う。 3)地震・水害等により被災した地域の復旧・復興事業に伴い、地方公共団体等が行う文化財保護事業への支援・協力を行う。
プロジェクト名称	地震・水害等により被災した文化財の復旧に関する地方公共団体等が行う文化財保護事業への支援・協力	
埋蔵文化財センター	【プロジェクトスタッフ（責任者に○）】 ○金田明大（埋蔵文化財センター長）、高妻洋成（参与・文化財防災センター長）、脇谷草一郎（保存修復科学研究室長）、柳田明進（埋蔵文化財センター主任研究員）	

【年度実績と成果】

- 平成28年熊本地震によって被災した熊本県下の装飾古墳の復旧支援のため、各市町の教育委員会によって組織された検討委員会に対して引き続き委員として職員を派遣した（熊本市、玉名市、御船町など）。
- 集中豪雨により球磨川の氾濫が発生した熊本県人吉市の大村横穴において、豪雨時に発生した土砂崩れの復旧方法について委員として指導助言をおこなった。また、復旧工事によって二次的に発生した、露頭の崩落抑制方法について助言及び指導をおこなった。
- 熊本地震によって復元封土に破壊が生じた熊本市の釜尾古墳、玉名市の永安寺東古墳、また被災古墳ではないものの、和歌山市の天王塚古墳を対象として、透水性あるいは透湿防水性を有するシートで墳丘封土を覆い、墳丘土壌の水分量をモニタリングすることで、地震などによって墳丘封土に劣化が生じた場合に、暫定処置として中長期にわたり封土を養生する適切な材料を選定した。
- 永安寺東古墳の石室内部温熱環境の実測調査、千金甲古墳の外界気象条件及び墳丘土壌の含水状態の実測調査を継続して行うとともに、永安寺東古墳の見学施設および石室内部において環境カビ調査をおこない、今後カビ増殖を抑制する手法を検討するための基礎データを取得した。



人吉市大村横穴群崩落地区の復旧方法に関する指導

年度計画評価	B
--------	---

【評定理由】

地震大国である日本においては、被災地域の（装飾）古墳において被害があった熊本地震と同様に、墳丘封土の物理的な破壊が生じるリスクが高い。また、近年豪雨災害が発災後、人的にも材料的にも決して十分な資源が準備出来ない状況下において、簡便かつ人的負荷の少ない墳丘・石室の保護方法の策定は、多くの遺跡に対してその成果を還元し得る極めて普遍性の高い課題と言える。このような調査を4年度から継続して実施し、およそ2ヵ年分のデータを蓄積できたことから上記の評価が妥当と考えた。

【目標値】	【実績値・参考値】 (参考値)	定量評価
	○委員委嘱件数：4件（熊本市、玉名市、御船町、人吉市） ○被災した遺跡の復旧に資する調査実施件数：4件	—

中期計画評価	B
--------	---

中期計画記載事項	国・地方公共団体や大学、研究機関との連携・協力体制を構築し、これらの機関が有する文化財に関する情報の収集、知見・技術の活用、機構が行った調査研究成果の発信等を通じて、文化財に関する協力・助言を行う。
評定理由	自然災害発生時における文化財の保全について、既に発生した被災遺跡の復旧に伴う情報や経験の蓄積は極めて重要なものである。中期計画の3年目である5年度は、4年度に引き続き熊本県熊本市の釜尾古墳、玉名市永安寺東古墳、及び和歌山県和歌山市の天王塚古墳の計3基の古墳を対象に調査をおこない、簡便な施工・材料による墳丘封土の養生効果について情報収集を進めることができた。以上の理由から、5年度も順調に計画を進捗できたとして上記の評価が妥当と考える。

中期計画の項目	2-(5)-③	地方公共団体等を対象とする文化財に関する研修及び協力等
年度計画の項目	2-(5)-③-1)	③平城宮跡、飛鳥・藤原宮跡等の公開・活用事業への協力 文化庁、国土交通省が行う平城宮跡、飛鳥・藤原宮跡等の公開・活用事業に協力する。また、NPO 法人平城宮跡サポートネットワーク及び周辺自治会等が行う各種ボランティア活動に協力する。 1) 文化庁、国土交通省が行う平城宮跡、飛鳥・藤原宮跡等の公開・活用事業への協力 ・文化庁が行う平城宮跡、藤原宮跡の整備、管理事業への協力
プロジェクト名称	文化庁、国土交通省が行う平城宮跡、飛鳥・藤原宮跡の整備・管理等への協力	
研究支援推進部	【プロジェクトスタッフ（責任者に○）】 ○西川知延（研究支援課課長）、永野陽子（研究支援課課長補佐）、岡本保彦（研究支援課係員）、新開良子（研究支援課係員）	

【年度実績と成果】

- (1) 特別史跡平城宮跡内復原整備事業についての助言及び情報提供を行った。
- ・平城宮跡歴史公園第一次大極殿院東楼復原整備事業への関係資料の提供及び助言
- (2) 平城宮跡及び藤原宮跡内における施設、歩道、植栽等の不具合の対応策提案及び維持管理業務の実施を行った。
- ・平城宮跡及び藤原宮跡の草刈り管理業務
 - ・平城宮跡及び藤原宮跡の維持管理について資料提供及び助言
 - ・復原施設、遺構表示、便益施設等故障対応提案
 - ・近隣住民からの苦情等への確認及び文化庁への助言
 - ・平城宮跡施設の消防通報訓練への参加

年度計画評価	B
--------	---

【評定理由】

文化庁や国土交通省からの要望に対し、これまでの方針や過去の経緯等の情報提供及び必要な助言及び提案を適時的確に行い、故障等の緊急事案にも迅速に対応した。また、文化庁、国土交通省等の委員会等への積極的な協力による情報提供を行い、適確な審議が可能となるための助言を行った。さらに整備内容、各所修繕事例を継続的に積み重ねることによって、今後においても必要に応じて情報を提供できるよう修繕履歴の整理を行っている。よって、順調かつ効率的に事業が推移していると判断し、B評価とした。

【目標値】	【実績値・参考値】 (参考値)	定量評価
	・各種会議への参加件数（公園整備関係 第一次大極殿院東楼復元工事定例会議 22 件） ・資料提供、協議等依頼への対応事項件数（文化庁 83 件、国土交通省 1 件） ・立会調査等対応件数（日数）等（文化庁 37 件、国土交通省 4 件）	—

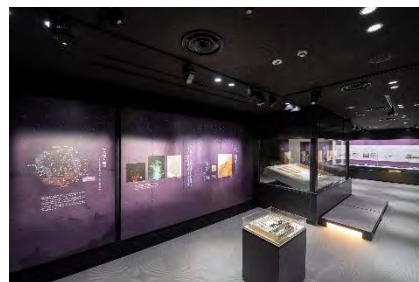
中期計画評価	B
--------	---

中期計画記載事項	文化庁と国土交通省が行う平城宮跡、飛鳥・藤原宮跡等の整備及び公開・活用事業に協力する。また、NPO 法人平城宮跡サポートネットワーク及び周辺自治会等が行う各種ボランティア活動に協力する。
評定理由	平城宮跡及び藤原宮跡内における維持管理及び修繕等の相談について過去の工事資料・調査実績に基づいて的確に助言等を行い対応している。また、文化庁施設及び国土交通省施設（復原施設・便益施設等）の計画的整備に対しても、必要な情報提供及び助言等の協力を行っており、第一次大極殿東楼復元整備について、定期的に打ち合わせを行った。中期計画として、予定通りに成果を上げることができていることから、B評価とした。

中期計画の項目	2-(5)-③	地方公共団体等を対象とする文化財に関する研修及び協力等
年度計画の項目	2-(5)-③-1)	③平城宮跡、飛鳥・藤原宮跡等の公開・活用事業への協力 文化庁、国土交通省が行う平城宮跡、飛鳥・藤原宮跡等の公開・活用事業に協力する。また、NPO法人平城宮跡サポートネットワーク及び周辺自治会等が行う各種ボランティア活動に協力する。 1)文化庁、国土交通省が行う平城宮跡、飛鳥・藤原宮跡等の公開・活用事業への協力 ・文化庁が行うキトラ古墳壁画保存管理施設の管理・運営と古墳壁画の公開事業への協力
プロジェクト名称	文化庁が行うキトラ古墳壁画保存管理施設の管理・運営と古墳壁画の公開事業への協力	
飛鳥資料館	【プロジェクトスタッフ（責任者に○）】 ○石橋茂登（学芸室長）、楊萌（学芸室アソシエイトフェロー）ほか5名	

【年度実績と成果】

- ・文化庁が行うキトラ古墳壁画保存管理施設の日常的な管理運営に協力した。
- ・キトラ古墳壁画の第27回公開「西壁白虎」（5月20日～6月18日）、第28回公開「南壁朱雀」（7月22日～8月20日）、第29回公開「北壁玄武」（10月14日～11月12日）、第30回公開「東壁青龍、天井天文図」（6年1月20日～2月18日）の広報物と解説リーフレット（日中英韓の多言語対応）、解説映像、解説音声の作成に協力した。5年は二十八宿と四神の關係に重点を置いて解説した。また、5年度調査の成果である十二支の申・巳・辰の蛍光X線分析による調査成果を写真展示した。
- ・壁画発見40周年を記念し、四神をデザインした紙製コースターを記念品として壁画公開参加者に配布した。
- ・壁画非公開期間における展示室公開と新年特別展示「キトラ古墳壁画の十二支『辰』（12月14日～6年1月16日）の開催にあたり企画・制作・展示などで協力した。
- ・キトラ天文図を解説するプラネタリウムイベント（6年1月26日～2月4日）を実施した。映像は新作「冬の星空と中国星座」を作成し、期間中、1月27・28日には生解説プログラムを行った。
- ・四神の館での乾拓イベントの実施に協力した。
- ・「四神の館文化財講座」講演2回の実施に協力した。
- ・文化庁、国土交通省飛鳥歴史公園事務所、飛鳥管理センターほかと月1回の定例協議を継続した。キトラ古墳周辺地区内の飛鳥管理センターとは毎日ミーティングを行い、広報等についても協力した。



第27回公開の様子

年度計画評価	A
--------	---

【評定理由】

5年度に実施した蛍光X線分析を用いた調査によって、これまで存在が推定されるに留まっていた泥に覆われた十二支「辰」「巳」「申」の図像が確認できたという最新の調査成果を、各壁面の公開時にパネルで図像と解説で紹介し、速やかに展示として公開できたことは高く評価できる。また、プラネタリウムイベントでは、飛鳥の冬の星空とキトラ古墳に描かれた中国星座を関連づけて解説する新しい映像「冬の星空と中国星座」を作成し、期間中2日間は解説員が会場で解説をするという新しい取り組みを行うなど、解説の幅を広げることに努めた点も特筆できる。さらに、各回の壁画公開における解説においては、キトラ天文図と四神を理解するうえで欠かせない、古代中国天文学における二十八宿と四神の關係といった高度に学術的な内容を、図を交えてわかりやすく解説した。加えて、関係機関との緊密な情報交換と連携のもと乾拓イベントや講演会などにも取り組み、公開活用事業に貢献した点も高く評価できる。

以上のように、毎年壁画5面を公開するという極めて展示品が限られた条件の中で、当初の計画を着実に実行だけでなく、最新の情報をいち早く紹介し、新たな解説の切り口や新しいコンテンツを模索し実施するなど、計画を大きく上回る成果を上げられたと判断し、A評価とした。

【目標値】	【実績値・参考値】	定量評価
	(参考値) ・壁画公開実施 4回 ・リーフレット 4枚 (ア～エ) ・協議等回数 計12回 ・移動プラネタリウム 1回 ・講演等 1回 (オ)	—
ア) リーフレット『令和5年度 キトラ古墳壁画 第27回公開』5月20日発行		
イ) リーフレット『令和5年度 キトラ古墳壁画 第28回公開』7月22日発行		
ウ) リーフレット『令和5年度 キトラ古墳壁画 第29回公開』10月14日発行		
エ) リーフレット『令和5年度 キトラ古墳壁画 第30回公開』6年1月20日発行		
オ) 乾拓イベント『キトラ古墳遺跡見学と乾拓体験』 竹内祥一朗・高橋知奈津 (11月11日・12日)		

中期計画評価	A
中期計画記載事項	文化庁と国土交通省が行う平城宮跡、飛鳥・藤原宮跡等の整備及び公開・活用事業に協力する。また、NPO法人平城宮跡サポートネットワーク及び周辺自治会等が行う各種ボランティア活動に協力する。
評定理由	毎年の壁画公開事業と管理運営業務という、ともすれば単調になりがちな事業を、さまざまな工夫によって参観者に新しい視点や新しい情報を提供することができた点は高く評価できる。世界最古の遺例ともいわれるキトラ古墳壁画の天文図というコンテンツを活かしたプラネタリウムイベントは独自性も高く、新しい映像や生解説などによりさらなる発展を試行し続けており、今後も関係機関との連携を密にしながら飛鳥地域全体の活性化に寄与することが期待できる。 以上の理由から、当初の計画を上回る成果をあげられたと判断し、A評価とした。

中期計画の項目	2-(5)-③	地方公共団体等を対象とする文化財に関する研修及び協力等
年度計画の項目	2-(5)-③-1)	③平城宮跡、飛鳥・藤原宮跡等の公開・活用事業への協力 文化庁、国土交通省が行う平城宮跡、飛鳥・藤原宮跡等の公開・活用事業に協力する。また、NPO 法人平城宮跡サポートネットワーク及び周辺自治会等が行う各種ボランティア活動に協力する。 1)文化庁、国土交通省が行う平城宮跡、飛鳥・藤原宮跡等の公開・活用事業への協力・国土交通省が行う平城宮跡第一次大極殿院を中心とする復原、整備・活用等への協力
プロジェクト名称	国土交通省が行う平城宮跡第一次大極殿院を中心とする復原・整備・活用等への協力	
都城発掘調査部（平城）	【プロジェクトスタッフ（責任者に○）】 ○箱崎和久（都城発掘調査部長）、今井晃樹（同部副部長）、西田紀子（同部平城地区遺構研究室長）、鈴木智大（同部飛鳥・藤原地区遺構研究室長）、山崎有生・目黒新悟・高野麗（以上同部平城地区遺構研究室研究員）、福嶋啓人（同部飛鳥藤原地区遺構研究室主任研究員）、馬場基（同部平城地区史料研究室長）、川畑純（同部平城地区考古第三研究室主任研究員）、田中龍一（同部平城地区考古第三研究室研究員）、浦蓉子（同部平城地区考古第一研究室研究員）、岩戸晶子（企画調整部展示企画室長）、中村一郎（企画調整部写真室専門職員）、飯田ゆりあ（同部主任）、鎌倉綾（同部技術補佐員）	
【年度実績と成果】 ・東楼復原工事に伴う定例会議に参加し、適時に専門的視点からの指導・助言をおこなった。 ・工事関係者向けの勉強会で講師を務めた（ア）。 ・東楼の瓦製作や納まりについて専門的観点からの助言をおこなった。瓦の型枠製作にあたり、出土品を実見する機会を設けた（イ）。 ・東楼の鴟尾の型枠製作にあたり、鴟尾の形状や文様の選定・配置等について専門的観点からの助言をおこなった。 ・第一次大極殿院東楼復原整備工事の広報活動に協力した。 ・第一次大極殿院復原研究および整備の意義等について国交省へ助言した。 ・4 年度に実施した古代技法による木口金具の製作実験の成果にもとづき、純銅製垂木先木口金具を 18 枚、青銅製垂木先木口金具を 6 枚鋳造した。また同製作現場において工事関係者向けの見学会を開催した（ウ）。 ・竹中工務店からの受託により、復原工事現場の写真撮影を実施した（エ）。		

年度計画評価		B
【評定理由】 国土交通省国営飛鳥歴史公園事務所からの要請（勉強会の講師、工事に伴う立会調査、復原工事に対する助言・協力等）に対して適宜対応した。第一次大極殿院東楼の復原建物工事に対して、学術的根拠をもった資料提示と研究成果を提供した。関係者が一同に集まり、検討課題となる現場や実物資料を前に直接説明及び議論を行うことで、要請に対する回答の回数を適切化した。3 年度に竣工した南門復原工事に引き続き、東楼復原工事に対して、適宜、研究協力を継続して実施している。また、工事の過程を継続的に撮影し、工事記録の蓄積も行ったことから、B と判定した。		
【目標値】	【実績値・参考値】 (参考値) ア) 工事関係者向けの勉強会 2 回、イ) 瓦復原への助言 4 回、ウ) 製作実験現場見学会 2 回、エ) 写真撮影 14 回	定量評価
		—

中期計画評価	B
中期計画記載事項	文化庁と国土交通省が行う平城宮跡、飛鳥・藤原宮跡等の整備及び公開・活用事業に協力する。また、NPO 法人平城宮跡サポートネットワーク及び周辺自治会等が行う各種ボランティア活動に協力する。
評定理由	5 年度は第一次大極殿院東楼の復原工事が継続した。南門復原時と同様に、復原工事の進捗状況にあわせて、屋根瓦の復原や施工等について助言等を適宜実施した。そのほか、国土交通省からの要請に基づく勉強会及び研修会を通して、研究成果が復原工事に生かされるよう対応した。6 年度以降も継続して適宜、協力していく予定である。以上、中期計画を順調に遂行できていると判断し、B と判定した。

中期計画の項目	2-(5)-③	地方公共団体等を対象とする文化財に関する研修及び協力等
年度計画の項目	2-(5)-③-1)	③平城宮跡・飛鳥・藤原宮跡等の公開・活用事業への協力 文化庁、国土交通省が行う平城宮跡・飛鳥・藤原宮跡等の公開・活用事業に協力する。また、NPO 法人平城宮跡サポートネットワーク及び周辺自治会等が行う各種ボランティア活動に協力する。 1) 文化庁、国土交通省がおこなう平城宮跡・飛鳥・藤原宮跡等の公開・活用事業への協力 ・国土交通省の平城宮いざない館展示室4（詳覧ゾーン）に関する学芸業務・連絡調整への協力
プロジェクト名称	国土交通省がおこなう平城宮いざない館での公開・活用事業への協力	
企画調整部	【プロジェクトスタッフ（責任者に○）】○岩戸晶子（展示企画室長）、小原俊行（展示企画室研究員）、吉野綾子（展示企画室アソシエイトフェロー）	

【年度実績と成果】

- 平城宮いざない館（以下、いざない館と略記）第4展示室の展示の学芸業務を中心に、いざない館の活動について国土交通省国営飛鳥歴史公園並びに平城宮跡管理センター（以下、管理センターと略記）への協力をおこなった。
- 当研究所所蔵の展示資料の状態確認と日報の作成を実施した。井戸部材（廊下）と斎串及び木樋、東楼の柱（展示室4）の状態について確認し、展示環境を重点的にモニタリングした。
- 開館から5年が経過し、設備にも経年の影響がみられるようになったため第4展示室の展示設計及び設備に関して改善点を検討し、文化財の展示環境改善に努めた。また、IPMの観点から環境整備に努めた。
- 展示キャプションの修正や展示パネルの追加を適宜実施し、最新の研究成果との整合性を保つよう努めた。
- 4年度から開催していた平城宮跡歴史公園5周年記念展「よろしく都邑を建つべし」展（会期：5年3/25～5/14）の撤収作業、返却などに協力・立会した。（5/15-17）
- 施設側による冷房から暖房への切り替えがうまくいかず、展示室が高温になってしまう緊急事態に対し、展示環境の変化と展示品の状況を詳細に確認・観察するとともに、文化財保存科学担当者と協力してモニタリングや分析を進め、今後の改善策を提案した。（5月～6年3月）
- 平城宮跡公認キャラクター「キュートぐみ【宮都組】」を用いた広報活動において、いざない館広報担当と密接に連携・協力することで相乗効果を追求し、計画にはない取り組みとして、インターネットミュージアム事務局が主催する「ミュージアムキャラクターアワード2023」にエントリーした。その結果、全58点中、初出場ながら第4位となり、本キャラクターを通じた平城宮跡及びいざない館の魅力の広報・周知に大きく貢献した。（7～9月）
- 平城宮跡資料館企画展開連イベント「こども飛行機教室」を平城宮跡歴史公園にて管理センターと共催した（8/4）
- いざない館主催の体験ワークショップ「人面墨書土器を描いてみよう」（5/6）「木簡にかいてみよう」（8/11）に学術協力した。
- 兵庫県の小学校との連携イベント「赤米献上隊」を管理センターと共催した。（11/2）
- 古代の盤上遊戯 かりうち対戦試合イベントを平城宮跡管理センターと共催した。（11/23）
- 平城宮跡及びいざない館の常設展、特別展の案内をX（旧Twitter）にて配信した。（11/29・30）
- いざない館と連携し、平城宮跡公認キャラクター「キュートぐみ【宮都組】」LINEスタンプを発売することで、本キャラクターを通じた広報活動を強化し、平城宮跡及びいざない館の魅力アップに貢献した。（6年1/15・3/14）。
- 当研究所所蔵物の貸出、返却、搬出、返却後の原状復旧をおこなった。（19件）
- 依頼のあった来館者等の案内、ボランティアガイド・来館者からの質問、マスコミの取材等の対応をおこなった。（28件）
- 平城宮跡いざない館発行の印刷・出版物の監修・校正をおこなった。（13件）



展示復旧作業

年度計画評価	A
--------	---

【評定理由】 特別展「よろしく都邑を建つべし」展への学術協力は歴史公園開園5周年に合わせたもので、これに学術面での協力をおこなった。平城宮跡の出土品について学ぶ体験型ワークショップの実施協力は、平城宮跡の長年の調査研究の成果を基にしており奈文研ならではのものである。また、いざない館に申し込まれた取材などのうち学術的成果に関わるものは積極的に当研究所展示企画室が分掌した。これらの活動により、幅広い層に平城宮跡や展示施設の意義や魅力をPRすることができ、公開・活用事業に大きく寄与できた。いざない館への協力体制も6年目を迎え、信頼関係や密な連絡体制も確立されており、かりうち対戦試合をはじめとする様々なイベントや広報、展示での連携を効率よくおこなうことができた。これまでの継続的な活動の成果があつてこそである。こうした計画に沿った事業の着実な実施に加え、5年度は、平城宮跡公認キャラクター「キュートぐみ【宮都組】」を用いた広報活動において、計画になかった「ミュージアムキャラクターアワード2023」へのエントリー及び本キャラクターのLINEスタンプ販売を行い、平城宮跡の魅力のさらなる広報に大きく貢献した。また、施設側の原因により突如発生した展示室の環境悪化に適切に対応し、文化財保存の観点から展示資料の劣化や展示環境についてモニタリングや分析を進めた。その研究成果は、6年度の奈良文化財研究所刊行物において公表する予定である。さらに、6年度以降の展示環境について、改善策を提案したことも特筆できる。以上から、当初の計画を上回る成果をあげられたと判断し、A評価とした。

【目標値】	【実績値・参考値】	定量評価
	(参考値) 平城宮いざない館と奈良文化財研究所での共催イベント(3件)、来館者等案内・質問対応・マスコミ及びテレビ取材対応等:27件、当研究所所蔵物の貸出・返却・搬出・返却後の原状復旧:15件、平城宮跡いざない館発行の印刷・出版物の監修・校正:13件、旅行会社企画の体験イベント、産学連携事業への専門的助言・協力:3件、展示室のメンテナンス・清掃時の文化財展示エリアの立会(28回)	—

中期計画評価	A
中期計画記載事項	文化庁と国土交通省が行う平城宮跡、飛鳥・藤原宮跡等の整備及び公開・活用事業に協力する。また、NPO法人平城宮跡サポートネットワーク及び周辺自治会等が行う各種ボランティア活動に協力する。
評定理由	いざない館に対し、さまざまなイベント・広報活動を連携しておこなうことができた。また、4年度に引き続き、平城宮跡に関わる体験イベントなどを実施できた。また、5年度は平城宮跡公認キャラクター「キュートぐみ【宮都組】」を使った広報活動を積極的に行うことにより、6年度以降、本キャラクターを活用した事業をさらに展開できる見通しを得た。このほか、5年度は展示環境の悪化という緊急事態の対応等にもなう展示環境に関する意見交換及び小規模な改善を連携して実施し、今後の展示環境の大きな改善につながった。これらの協力事業を継続的に実施することによって、展示及び文化財の活用をより強力に推し進めるとともに、6年度以降に効果が見込める活動を行えた。以上の取り組みから、今後、中期計画を上回る成果が見込まれると判断し、A評価とした。

中期計画の項目	2-(5)-③	地方公共団体等を対象とする文化財に関する研修及び協力等
年度計画の項目	2-(5)-③-2)	③平城宮跡、飛鳥・藤原宮跡等の公開・活用事業への協力 文化庁、国土交通省が行う平城宮跡、飛鳥・藤原宮跡等の公開・活用事業に協力する。また、NPO 法人平城宮跡サポートネットワーク及び周辺自治会等が行う各種ボランティア活動に協力する。 2) NPO 法人平城宮跡サポートネットワーク及び周辺自治会等が行う各種ボランティア活動への協力
プロジェクト名称	NPO 法人平城宮跡サポートネットワーク及び周辺自治会等が行う各種ボランティア活動への協力	
研究支援推進部	【プロジェクトスタッフ（責任者に○）】○山上 徹（連携推進課長）、西川知延（研究支援課長）、田島章雅（連携推進課課長補佐）、永野陽子（研究支援課課長補佐）、桑原隆佳（連携推進課広報企画係長）、新開良子（研究支援課係員）	

【年度実績と成果】

1) NPO 法人平城宮跡サポートネットワークへの協力

- ・NPO 法人平城宮跡サポートネットワーク、奈良県、国交省の委託業者との4者共催による「第21回平城宮跡クリーン大会」を9月3日に開催した。
- ・NPO 法人平城宮跡サポートネットワークの事業等における、会場提供等及び情報共有のための会議開催の協力を行った。
- ・NPO 法人平城宮跡サポートネットワークとの定期連絡会議（月1回開催、年計12回開催）
- ・平城宮跡歴史公園ガイド連絡協議会（NPO 法人平城宮跡サポートネットワークを含む奈良県、国交省の委託業者との4者での会議：2ヶ月に1回開催、年計6回開催）
- ・NPO 法人平城宮跡サポートネットワークが刊行する広報誌「天平のひろば」掲載のためのインタビューに協力した。



職場体験学習の支援

2) 周辺自治会等への協力

- ・都跡地区自治連合会主催の「都跡ふれあいまつり」（9月30日開催）において、NPO 法人平城宮跡サポートネットワークが「かりうち」を出展し、出展に伴うパネルの貸出、配布用ルールブックの印刷などについて協力した。
- ・受託業務に関連し、地元自治会等からの申し出を適宜、文化庁に取次ぎを行った。

3) その他

- ・職場体験学習の支援（伏見中学校（10月23日～24日）（参加人数3名）、富雄南中学校（11月8日～10日）（参加人数3名）、富山県ひとづくり財団（8月29日～30日）（参加人数1名））
- ・職場見学（バックヤードツアー）の支援（奈良教育大学附属中学校）（8月23日）（参加人数21名）

年度計画評価	B
--------	---

【評定理由】

NPO 法人の活動に継続して協力すると共に、NPO 法人との定期的な情報共有、意見交換を行う連絡会議を月1回実施し、平城宮跡解説ボランティア活動の参考に資することができた。また、平城宮跡歴史公園の設置に伴う情報共有、意見交換を行うため、NPO 法人を含む奈良県、国交省の委託事業者との4者会議を定期的に開催したことにより継続して連携協力関係を維持し、平城宮跡の活用の重要性について認識することができた。

また、NPO 法人等との協力を通じて、当研究所の研究成果を広く情報発信を行うことができた。

以上により、本事業については、順調かつ効率的に事業が推移していると判断し、B評価とした。

【目標値】	【実績値・参考値】 (参考値)	定量評価
		—

中期計画評価	B
--------	---

中期計画記載事項	文化庁と国土交通省が行う平城宮跡、飛鳥・藤原宮跡等の整備及び公開・活用事業に協力する。また、NPO 法人平城宮跡サポートネットワーク及び周辺自治会等が行う各種ボランティア活動に協力する。
評定理由	5年度は計画通り、各種ボランティア活動への協力体制を維持し事業計画を達成し、平城宮跡解説ボランティア活動にも資することができた。培ってきた連携協力関係を基礎として、6年度以降も継続して協力を行えると判断し、B評価とした。

中期計画の項目	2-(5)-④	地方公共団体等を対象とする文化財に関する研修及び協力等
年度計画の項目	2-(5)-④-1)	④連携大学院との連携教育等の推進 連携大学院との連携教育や大学への教育協力を実施し、今後の我が国の文化財保護における中核的な人材を育成する。 1) 東京藝術大学、京都大学、奈良女子大学との間での連携大学院教育等の推進及び奈良大学への教育協力の実施 ・東京藝術大学大学院：システム保存学(保存環境学、修復材料学)
プロジェクト名称	東京藝術大学との間での連携大学院教育の推進	
保存科学研究センター	【プロジェクトスタッフ（責任者に○）】 ○朽津信明（修復計画研究室長）、犬塚将英（分析科学研究室長）、早川典子（修復材料研究室長）、佐藤嘉則（生物科学研究室長）、安倍雅史（文化遺産国際協力センター）、前川佳文（文化遺産国際協力センター）	

【年度実績と成果】

○5 年度開講した授業及び担当教員、受講者数

保存環境計画論（前期、火曜 1 限） 2 単位 朽津信明・犬塚将英・佐藤嘉則 15 人（聴講 1 人）
 修復計画論（前期、木曜 1 限） 2 単位 朽津信明・安倍雅史・前川佳文 14 人
 修復材料学特論（前期、木曜 2 限） 2 単位 早川典子 16 人
 保存環境学特論（後期、火曜 1 限） 2 単位 犬塚将英・佐藤嘉則 7 人（聴講 8 人）
 文化財保存学演習
 講師：佐藤嘉則 「水損資料の微生物劣化を防ぐ応急処置」
 日時：7 月 18 日(火)13～17 時、16 人

○学生指導 修士課程 1 人、博士課程 1 人
 修士課程入試 受験者 1 人 合格者 1 人

○成績評価等、文化財保存学専攻運営への協力

教員会議（11 回）、入試合同判定会議（2 回）、
 博士学位審査 1 件（主査 早川典子 副査 朽津信明 犬塚将英） 修士学位審査副査 1 件（早川典子）



文化財保存学演習風景

年度計画評価	A
--------	---

【評定理由】

当プロジェクトは、平成 7 年 4 月より東京藝術大学と連携してシステム保存学コースを開設し、21 世紀の文化財保存を担う人材を育成している。5 年度は、当所が同コースを担当して以来、初めて博士の学位授与を行うことができる見込みとなっている（学位審査で既に合格判定が得られている）。学位授与は、文化財分野に寄与する人材を世に輩出することとともに、次世代の人材を養成する上でも極めて重要な成果であり、平成 7 年に連携併任事業が始まって以来、一度も達成できていなかった成果を今年度初めて達成したものである。また修士学生の指導、講義、入試、大学運営等にも継続性をもって例年通り寄与できており、大学院合格者も得て発展性が期待される。よって 5 年度は A 評価と判断する。

【目標値】	【実績値・参考値】 (実績値)	定量評価
	・開講時間：前期 火曜 1 限、木曜 1 限、木曜 2 限 / 後期 火曜 1 限 ・開講回数：90 分×各 15 回、受講者数：延べ 60 人 ・開講時間 1 限 9：00～10：30 2 限 10：40～12：10 3 限 13：00～14：30 ・開講回数 計 4 コマ 各 2 単位 ・学生指導 博士学位審査 1 人 修士課程指導 1 人 ・入試 修士課程入試 受験者 1 人	—

中期計画評価	B
中期計画記載事項	
評定理由	博士課程の学生が学位審査で合格しているため博士授与が行われる見込みであり。修士課程の学生指導も引き続き順調に行われている。入試で合格者も得ており、大学側からの評価も高く、順調に推移している。以上の理由から、中期計画の予定通り、順調に遂行されていると言える。

中期計画の項目	2-(5)-④	地方公共団体等を対象とする文化財に関する研修及び協力等
年度計画の項目	2-(5)-④-1)	④連携大学院との連携教育等の推進 連携大学院との連携教育や大学への教育協力を実施し、今後の我が国の文化財保護における中核的な人材を育成する。 1) 東京藝術大学、京都大学、奈良女子大学との間での連携大学院教育等の推進及び奈良大学への教育協力の実施 ・ 京都大学大学院：共生文明学（文化・地域環境論） ・ 奈良女子大学大学院：人文科学（比較文化学） ・ 奈良大学：「文化財修景学」
プロジェクト名称	京都大学・奈良女子大学との間での連携大学院教育の推進及び奈良大学への教育協力	
奈良文化財研究所	【プロジェクトスタッフ（責任者に○）】 ○本中眞（所長）	
【年度実績と成果】		
○客員教授・准教授として学位審査及び各専門分野に関する講義、演習、実習を開設し、大学院生の研究指導を実施。 京都大学大学院人間・環境学研究科 ・ 清野 孝之「埋蔵文化財調査・研究・保護論」「文化遺産学演習 1A・1B」 ・ 玉田 芳英「原始・古代精神文化論」「文化遺産学演習 2A・2B」 ・ 馬場 基「史料学論 1・2」「文化遺産学演習 3A・3B」 ・ 山崎 健「環境考古学論 1・2」「文化遺産学演習 4A・4B」 ・ 脇谷草一郎「保存科学論 1・2」「文化遺産学演習 5A・5B」 奈良女子大学大学院人間文化総合科学研究科 ・ 今井 晃樹「東アジア考古学特論」「東アジア考古学演習」 ・ 神野 恵「歴史考古学特論」「歴史考古学演習」 ・ 桑田 訓也「木簡学特論」「木簡学演習」 ○奈良大学との教育協力協定に基づき、職員を奈良大学に派遣し、講義、演習、実習を通して大学生への研究指導を実施。 奈良大学文学部文化財学科 ・ 内田 和伸、中島 義晴「文化財修景学」		

年度計画評価	B
--------	---

【評定理由】 当研究所が長年培ってきた専門知識及び最新の研究成果などを基に研究指導を行い、連携大学院及び大学における講義や研究指導を通じて、次世代の研究者の育成・発展に大きく貢献した。 京都大学及び奈良女子大学で学生を指導・教育行い、京都大学大学院人間・環境学研究科との連携においては、学生の学会発表や論文作成に関する指導、および修士論文・博士論文の審査を行い、文化財研究の視点から指導・助言を行うことによって、最新の知見を教育現場に反映させた。奈良女子大学の講義では、出土遺物を用いながら講義をおこない、演習では実際に遺物の実測や積読などをおこなっている。奈良大学「文化財修景学」の講義においては、平城宮跡見学を実施し、木簡に関する展示「地下の正倉院展」も観覧させることで、遺跡への理解を深める工夫をした。 文化財保存・活用に関する幅広い知識と高度な技術を兼ね備えた人材育成について、計画どおり寄与することができたため、B評価とした。		
【目標値】	【実績値・参考値】 (参考値) ・受入学生数 京都大学大学院 3 人 奈良女子大学大学院 10 人 奈良大学 45 人	定量評価 —

中期計画評価	B
中期計画記載事項	連携大学院との連携教育や大学への教育協力を実施し、今後の我が国の文化財保護における中核的な人材を育成する。
評定理由	連携大学院協定及び教育協力協定に基づき、これまで蓄積してきた研究成果を基に連携大学院との連携教育及び大学への教育協力を実施し、今後の我が国の文化財保護における中核的な人材の育成に貢献できた。よって、中期計画 3 年目として順調に成果を挙げているものと判断し、B評価とした。